NIHON KOHDEN
日本光電工業株式会社

2017年3月期第2四半期決算
決算説明会における主な質疑応答

2016年11月9日、東京

Q1: 第1四半期（会計期間）のスロースタートに対し、第2四半期（会計期間）は売上の伸びが良かった。第2四半期の伸びは通常ペースなのか、あるいは特別な要因があって好調だったのか。

A1: 第1四半期は前期末に売上が集中した反動があったが、第2四半期は国内・海外ともに回復してきた。合わせて、国内では診療報酬改定を受けて急性期市場での需要が増加し、売上の伸長につながった。

Q2: 売上見通しについて教えてほしい。通期の海外売上高見通しは、現地通貨ベースで16.5%増収だが、上期の実績を考慮すると高すぎるのではないか。逆に、国内は第2四半期（会計期間）が好調だったことを考慮すると下期の計画が低すぎると思うが、要因を教えてほしい。

A2: 海外については、現在の受注動向や商談の状況を踏まえており、既に計画からかい離している欧州と中国の状況も反映しているため、各地域ともに計画は達成可能と考えている。国内については、診療報酬改定を受けて急性期市場での需要が増加したが、下期もその影響が残るため、第2四半期（会計期間）ほどではないとしても、売上は引き続き伸びると見ている。

Q3: 海外の見通しについて教えてほしい。上期の欧州は、好調だった前年同期の反動でドイツが弱かったとのことだが、下期に成長できる目途があるのか。また、米国では新製品の発売やIDN対策が進んでいるが、売上見通しの達成見込みはどうか。中国の状況についても教えてほしい。

A3: ドイツでは、自社営業員による直接販売と、代理店経由での販売を行っている。最適な販売チャネルを活用できるよう、販売体制の強化・再編を進めており、下期から効果が現れると考えている。米国については、新製品の発売によって製品ラインアップが整い、大手IDNとの関係強化も進んでいる。今後見込まれる商談の状況等も踏まえ、十分に成長できると考えている。中国は、ここ数年厳しい状況が続いていたが、今年に入ってから若干回復傾向にあり、計画には届かないものの、現地通貨ベースでは前年同期を上回って推移している。市場環境が良くなれば、また成長路線に戻せると考えている。

Q4: 国内では、上期は私立病院を中心に急性期の需要が拡大したと思う。下期に予算執行が多い官公立・大学病院でも同様の需要拡大が見込めるのか。また、国内は、前年同期が好調だったことを考慮すると下期の計画が高いと思うが、達成確度を教えてほしい。

A4: 国内市場では、診療報酬改定によって重症度の評価が変わり、これに対応するため、モニタなどの需要が増加した。私立病院だけでなく官公立・大学病院でも同様の需要があるが、官公立・大学病院市場では予算執行が多い下期に需要が拡大すると考えている。下期の見通しについては、営業体制を病院営業とＧＰ※営業に再編した効果や、現在の市場環境、受注及び商談動向を踏まえると、達成可能であると考えている。

※GP ： General Practitioner 総合診療医

Q5: 設備投資、減価償却費、研究開発費の見通しを減額した背景を教えてほしい。人員はかなり増強してきており、以前の説明では、開発など成長投資も緩めないとのことだったと理解している。

A5: 設備投資は、当初 100 億円を見込んでいたが、西落合事業所の改修を行う時期がずれたため、10 億円減額し、90 億円に修正した。総合技術開発センタへの投資など、そのほかの投資は計画通り行っている。研究開発費は、当初かなり多くの研究開発テーマを見込んでいたが、上期の進捗に若干遅れもあったため、見直した。前期との比較では、上期は 3.4 億円、通期は 6 億円の増加であり、将来の成長に向けた投資を大きく削減した訳ではない。減価償却費は、デモ機や金型などの設備投資の時期が計画より後倒しになったものがあり、修正している。

以　上

＜ご留意事項＞

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたものではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。